

平成18事業年度に係る業務の実績に関する概要



平成19年8月6日



神戸大学

- 1 業務運営の改善と効率化

◆ グローバル・エクセレンスの実現に向けて

- 「神戸大学の使命」、「神戸大学ビジョン2015」、「神戸大学ビジョン2015アプローチ」の公表。
- ビジョンの実現に向けた具体的施策の洗い出しや優先順位付け等の実施。



神戸大学ビジョン2015
Toward Global Excellence in Research and Education

神戸大学の使命

神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成します。

世界トップクラスの研究機関
2013~2018 (新たな挑戦に着手する時代)

世界トップクラスの教育機関
2013~2018 (新たな挑戦に着手する時代)

卓越した社会貢献
2010~2012 (実現を目指して大きく変わる時代)

卓越した大学経営
2010~2012 (実現を目指して大きく変わる時代)

真摯
自由
協同

Excellence
Challenge
Change

神戸大学ビジョン2015
"Toward Global Excellence in Research and Education"

神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、構成員一人ひとりが「真摯・自由・協同」の精神を共有しつつ、更なる飛躍に向けて、2015年までに「グローバル・エクセレンス」の実現を目指します。

世界トップクラスの研究機関に

既存の学術領域、その連携・融合が生み出す新たな学術領域における本学のコア研究により、世界的に卓越した成果を恒常的に創出し、世界トップクラスの評価を得る研究機関になります。

世界トップクラスの教育機関に

本学の教育憲章に則り、卓越した独自の教育プログラムを通じて、高い見識とグローバルな視野を有する人間性豊かな指導的人材を育成し、世界トップクラスの評価を得る教育機関になります。

卓越した社会貢献を

世界的に卓越した研究成果の普及、多様なフィールドで活躍する指導的人材の育成、高度先進医療の推進を通じて、世界と地域から高い評価を得る貢献をします。

卓越した大学経営を

ビジョンの達成を通じて、構成員一人ひとりが自己実現を確信するとともに、ステークホルダーからの期待に応える大学経営をします。

<神戸大学ビジョン2015>の達成に向けて、〔チャレンジ・フェーズ2006~2009〕、〔チャレンジ・フェーズ2010~2012〕、〔エクセレンス・フェーズ2013~2015〕から成る神戸大学ビジョン2015アプローチを策定し、それぞれのフェーズ別目標に到達すべく邁進します。
詳細はホームページ (<http://www.kobe-u.ac.jp/info/mission-vision/index.html>) をご覧ください。

- 1 業務運営の改善と効率化

◆ 機動的な研究戦略の企画・立案体制の整備

- ビジョン,特にグローバル・エクセレンスを実現するため,「学術研究推進機構」の下にある「学術研究推進室」を「**学術研究推進本部**」に改編し,教員・事務職員が一体となって全体的な研究戦略を企画・立案する体制を整備した。

◆ 学長のリーダーシップに基づく企画立案体制の強化のための室の再編・設置

企画室

「神戸大学ビジョン2015」の達成に向け,企画機能を強化するため「企画広報室」から「企画室」を分離。

入試広報室

優秀な学生確保のため,入試に特化した「入試広報室」を設置。

業務改善推進室

「業務改善プロジェクト」で作成した施策案の調整・実行や進捗管理を行うため設置。

男女共同参画推進室

女性研究者の雇用促進やその能力を最大限に発揮できる施策の立案・実施等を行うため設置。
学外有識者の特別顧問登用を決定。

基金推進室

「神戸大学基金」に関する活動を積極的に推進するために設置。

- 1 業務運営の改善と効率化

◆ 神戸大学独自の戦略的資源配分

◆ 教育研究活性化のための経費配分

- 教育研究活性化支援経費	309百万円	教育分野 申請27件 採択12件 15百万円 研究分野 申請33件 採択15件 35百万円
(戦略的・独創的な教育研究プロジェクト)	(50百万円)	
(教育研究環境高度化事業)	(176百万円)	
(国際交流推進事業等)	(83百万円)	
- 若手研究者育成支援経費	10百万円	文系 申請7件 採択3件 4百万円 理系 申請10件 採択4件 6百万円

◆ 経営戦略に基づく経費の重点配分

- 部局長裁量経費(各部局の年次計画の達成促進等)	176百万円
- 学生支援(教務情報システムのWeb化)	28百万円
- 研究支援(RA経費,若手教員の研究支援等)	146百万円
- 研究環境の改善(学術情報共通化経費等)	81百万円
- 施設改修関係(建物新営設備,移転費等)	561百万円
- 収入見合経費(講習料,財産貸付料,農場収入等)	119百万円

◆ 教育研究推進のための戦略的人員配置

- 国際的な研究拠点の形成を目指して選定した平成19年度「学内発の卓越した研究プロジェクト」7件に対して13名の教員配置を決定。

- 2 財務内容の改善

◆ 補正予算と予算編成方針

- ◆ 平成17年度に引き続き、期中における予算の執行状況に的確に対応するため、下記の点に留意しつつ2回に渡る補正予算を実施した。

留意点 “年度途中における人件費と自己収入の実績”
留意点 “配分した予算に対する不用額の調査に基づく節減額と予備費”
留意点 “病院収入の増減に対応するための保留分”

- 当初配分額	:	大学分	6,500百万円	病院分	11,248百万円
- 第一次補正予算執行額	:	大学分	680百万円	病院分	1,157百万円
- 第二次補正予算執行額	:	大学分	19百万円	病院分	2,103百万円

◆ 経営分析

- 戦略的な財務運営を行うため、平成21年度までの損益予測等の経営分析を実施した。予測に当たっては、学生収容定員超過抑制による授業料収入への影響、平成19年度以降の医学部附属病院経営の予測と借入金返済計画・事業計画等に特に留意した。

◆ 人件費削減の取組

- 平成17年度の人事院勧告(給与構造改革)に準拠した給与改定の実施と「行政改革の重要方針」で示された総人件費改革を踏まえて策定した中期計画(平成21年度までに概ね4%の人件費削減)に基づいた平成18年度の年度計画(概ね1%の人件費削減)を達成した。(対前年比1.71%減)

◆ 資金運用

- 平成17年度にラダー型ポートフォリオに基づき購入した債券のうち、満期償還となった資金(1年債,5億円)については、市場情勢や金利等を考慮した上で、順次中期債権(5年債,5億円)を購入してその再運用を図った。また、別途、大口定期預金で短期運用(3ヵ月,5億円)も行った。

- 2 財務内容の改善

◆ 経費削減

- 非常勤講師任用に関する基本方針に従った雇用制限による経費削減 (対前年度980時間減)
- 印刷物・定期刊行物のWeb化・電子化による印刷経費等の削減(5百万円)
- 附属図書館業務の合理化,印刷物等のWeb化による経費削減(8百万円)
- 省エネルギー推進による経費削減
- 定期健康診断の分散実施による,待ち時間短縮や部局からの補助要員供出の廃止による経費削減

◆ 自己収入の増加

◆ 外部研究費獲得の支援策として,競争的資金一覧(国・政府系機関)のHP上での公開,科学研究費補助金等に関する全学説明会の実施,事務系職員による外部資金獲得のための申請書作成支援等を行った。

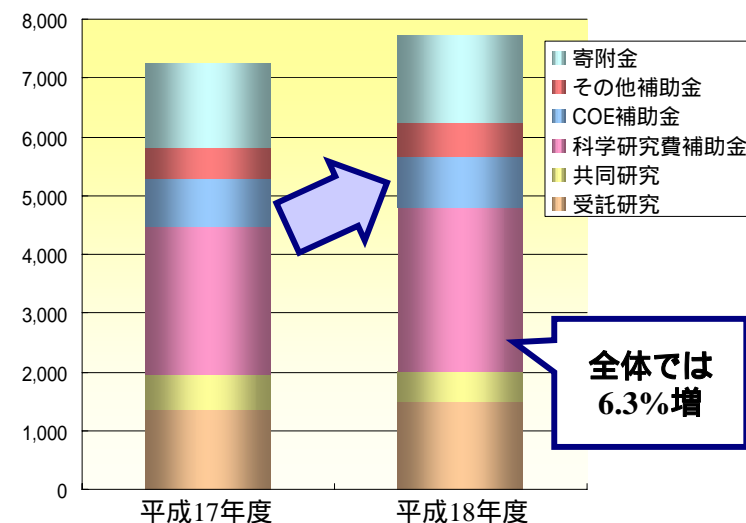
- 寄附金	1,484百万円	21百万円増
- その他補助金	575百万円	69百万円増
- COE補助金	872百万円	49百万円増
- 科学研究費補助金	2,769百万円	255百万円増
- 共同研究	540百万円	65百万円減
- 受託研究(含む受託事業)	1483百万円	128百万円増



< 省エネポスター >



< 週間電気予報 >



- 3 自己点検・評価及び情報提供

◆ 神戸大学情報データベース(KUID)の本格稼働

- 大学情報ニーズへの機動的かつ効率的な対応を目的として開発したKUIDへの本格入力を開始した。

◆ 法科大学院予備評価

- 法学研究科では、大学評価・学位授与機構による「法科大学院認証評価」の予備評価を受けた。

◆ 従前の評価結果の大学運営への活用

- 兵庫県学術ネットワークへの対応について …ネットワーク環境の変化に伴う貢献余地の減少により発展的に解消
- 定年年齢の延長について …再雇用制度を制定し、平成18年度定年退職者から適用

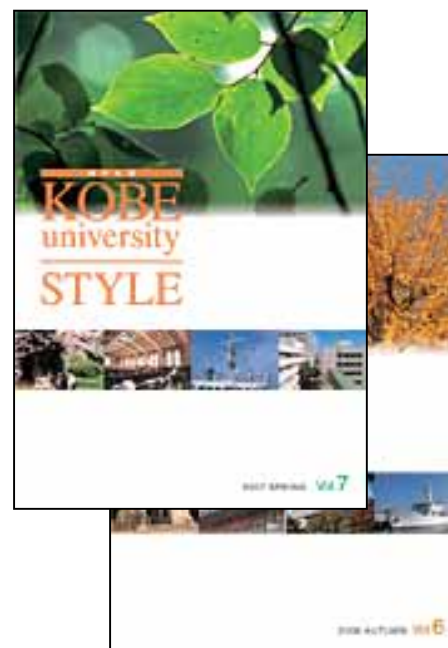
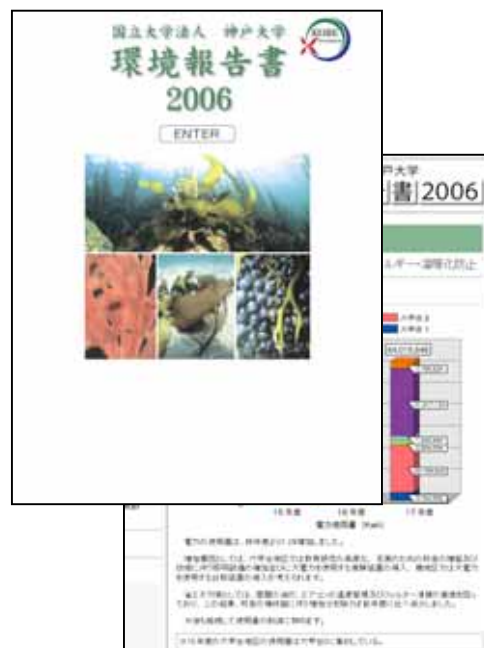
◆ 21世紀COEプログラムの中間評価に基づく改善

- バイオシグナル研究センターでは、中間評価で指摘された構造解析研究の遅れを取り戻すべく、当該研究を積極的に行い、兵庫県立大学との共同セミナーを12月に開催するなど構造解析研究を進展させた。

- 3 自己点検・評価及び情報提供

◆ ステークホルダーへの情報発信の充実

- 財務内容について、パンフレット「神戸大学の財務状況」を発行し、学内外に配布した。
- 「環境憲章」に基づき「環境報告書」を作成し、学内外に配布した。
- 広報誌「KOBЕ university STYLE」を学生・受験生向けとは別に、保護者・同窓生向けバージョンを作成し配布した。
- ホームページ上の動画版大学案内「神戸からの風」の学部紹介を更新した。
- ホームページ上の「お知らせ」「研究会・イベント情報」の英語版を日本語版に常時同期させる形で更新した。



- 4 その他の業務運営

◆ グローバル・エクセレンスを目指した研究設備整備マスタープランの策定

- 研究面でのグローバル・エクセレンスを達成するため、4大学術系列別に「研究設備整備マスタープラン」を策定した。



◆ 施設維持管理・安全対策

- 内部廊下、階段、電気設備、機械設備の施設保全調査等に基づき、点検記録(カルテ)を作成。
- 収集した施設関係データを効果的な施設営繕に活用するために管理システムを構築。
- 学内暗所への外灯増設、巡回警備の強化、歩車道の分離による交通安全対策等を実施。



◆ 学生生活支援のためのアメニティ整備

- 福利施設の充実と学生への利便性・サービスの向上を目指して、外部事業者によるコンビニエンス・ストアの学内導入が決定した。(平成19年4月から「セブン・イレブン」が開店)
- 昼時の混雑が激しい文理農学部キャンパスの食堂の拡張工事を実施し、交流・憩い・学生生活支援のスペースを確保した。



- 4 その他の業務運営

◆ 危機管理

◆ 研究費不正使用防止のための体制整備

- 研究者の倫理的自律を求めた「神戸大学の学術研究に係る行動規範」を定めるとともに、「神戸大学における学術研究に係る不正行為の防止等に関する規則」を定めた。
- 公的研究費の獲得状況や管理体制等から不正使用が発生しやすい要因を洗い出し、それらを体系的に整理し評価するための新たな組織として、学長直轄の「コンプライアンス室」を設置することとした。

◆ 防災訓練

- 消防署員指導の下、エリア毎に防災訓練を実施した。



◆ 環境保全

- 大学自らも環境保全に率先して取り組むことを宣言した「環境憲章」を制定
- 環境報告書を作成し配付した。
- ゴミの分別リサイクルについて、新たな分別・排出方法を盛り込んだ「環境管理ガイドブック」を発行し配付した。



- 4 その他の業務運営

◆ 第1回神戸大学ホームカミングデイ

- 大学と同窓会との共催により「第1回神戸大学ホームカミングデイ」を開催した。(記念式典には300名が参加)
- 卒業生・修了生に教職員，現役学生，地元市民も加え，記念式典や各キャンパスでの学部企画を実施した。



- 4 その他の業務運営

◆ 附属病院に関する取組

◆ 収支の改善状況

- 「病床マネジメント室」を設置し、適切な病床管理の下での迅速な患者受入れにより、前年度を上回る成果となった。

	平成17年度	平成18年度
病床稼働率	83.22%	84.93%
一日当たり外来患者数	1,674名	1,710名
医療収入	18,186,198千円	19,132,305千円

◆ がん・地域医療等社会的要請の強い医療の充実に向けた取組

- 腫瘍センターや緩和チーム等を設置・整備したことにより、厚生労働省から兵庫県がん診療拠点病院に指定された。

◆ 患者サービスの改善・充実

- 7対1看護体制実施に合わせた看護師100名の増員確保。
- 患者が必要とする医療情報を提供するため、セカンドオピニオン外来を開始した。
- 肝臓・移植外科において、経皮的灌流化学療法やスパーサー留置術の自由診療の拡大を図った。
- 重症患者の増加に対応するために、ICUを8床から24床に増床した。

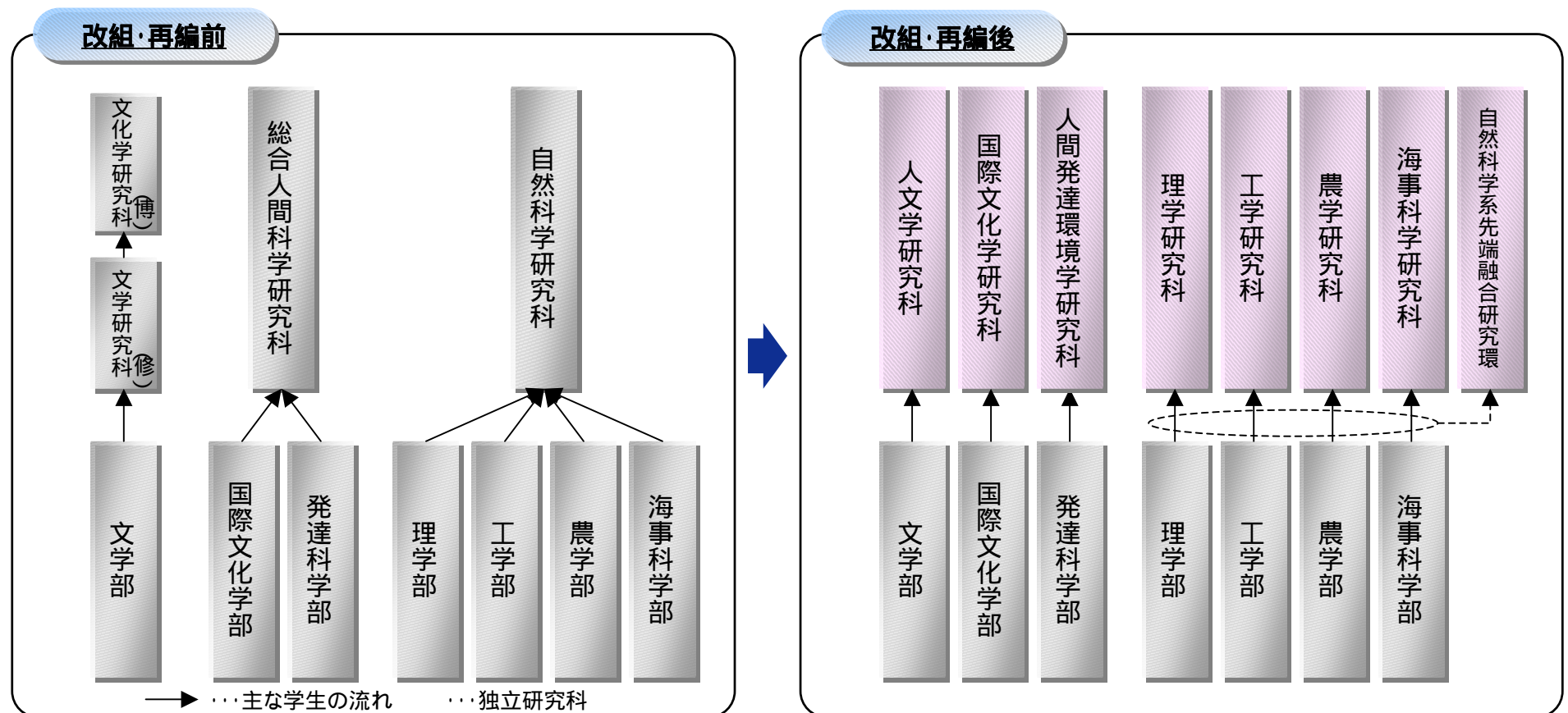
◆ 質の高い医療人育成

- 「家庭医」の教育・育成に造詣の深い専門医を招へいし、全人的医療を行う医師の育成やチーム医療を実践した。
- 卒後臨床研修の必須科目「地域保健・医療」について、神戸市医師会と連携し、診療所・ホスピス・リハビリテーション病院等において、効率的な研修ができるよう工夫した。

教育研究等の質の向上

◆ 大学院改組

- 教育研究の高度化と社会からの要請に適切に対応し、大学院教育の組織的展開を強化するため、以下のような改組・再編を行うこととした。



教育研究等の質の向上

◆ 入試広報活動

- 主要大学説明会への参加 札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 金沢, 京都, 福岡(490名)
- 本学単独の説明会の実施 東京, 名古屋, 大阪, 広島, 岡山(424名)
- 4大学合同説明会への参加 福岡(60名)
- 学部別オープンキャンパスの実施 9,259名
- 高等学校からの入試説明・施設見学要請への対応 2,592名
- 高等学校への「出前授業」や大学での「体験授業」の実施 84回:3,055名, 44回:1,546名

◆ 補習(リメディアル)教育の継続実施

- 新高校教育課程を経た入学生に対し,特に必要性が高いと判断される数学と物理について,大学教育推進機構内に学習指導室を設置し,担当教員が随時対応した。
- 新入生の大学教育への円滑な適応を図るため,各学部において導入教育(例:法学部「法政基礎演習」,医学部「生命科学入門」,工学部「体験型総合演習」)や少人数形式の基礎ゼミを実施した。

◆ 教養教育の充実

- 教養原論科目 開講科目数 : 32科目 66科目 開講コマ数 : 142コマ 206コマ

◆ 社会的ニーズに応えるための高度専門職業人の育成

- 法科大学院 : 教育カリキュラム,自習室等の学習環境整備を実施し,「新司法試験」において多数の合格者を輩出。(40名,7位)
- 経営学研究科(MBA) : 学部夜間主コースを廃止し,MBAコースの入学定員を増加させることで社会人教育を充実。

教育研究等の質の向上

◆ グローバル人材育成に向けた外国語教育の拡充

- 意欲ある学生のためのインテンシブコース(1年生向け)やアドバンストコース(2年生以上向け), 第3外国語(韓国語, スペイン語, イタリア語等)を開設。
- 総合的語学学習環境の場としてCALL教室1室を追加整備。(計3室, PC150台) 授業外の自主学習での利用4,125名
- ランゲージハブ室 外国語専任教員と外国人TAによる課外指導 5,400名
- プレゼンテーション実習室 英語ネイティブの補佐員による課外指導 623名
- 現代GP「PEPコース導入による先進的英語教育改革」に先立ち, 課外指導として英語プレゼンテーションセミナーを実施。623名が受講。
- 海外語学研究の積極的展開(メルボルン大学:21名, 北京外国語大学:14名, ワシントン大学:21名, グラーツ大学:12名, フランシュ・コンテ大学:7名)

◆ 学生・社会のニーズを踏まえた教育改善のための多層的アンケートの実施

- 全学統一項目による授業評価アンケートを学生と教員がインタラクティブなコミュニケーションが取れるWeb方式にて実施。
- 神戸大学で学んだこと・要望を聞くために, 卒業・修了時アンケートをWeb方式にて実施。
- 卒業生・修了生として神戸大学に期待することを聞くために, 第1回神戸大学ホームカミングデイにてアンケート調査を実施。
- 雇用者として神戸大学に期待することを聞くために, 企業アンケートを実施。

◆ キャリア教育

- 1年生対象のキャリアガイダンス, キャリア科目の他, 就職支援室において就職ガイダンス(25回, 7,500名), 就職相談(700件), 各部局・同窓会主導で就職ガイダンス(133回)を開催。

教育研究等の質の向上

◆ 産学連携を超えた連携

- 川崎重工業と戦略的連携契約を締結。文理融合体制の下、ニーズ発掘段階からの共同研究を開始。



◆ 「神戸大学東京フェア」の開催

- 東京での神戸大学の研究成果の発信に努めた。発表69件 参加者552名



◆ 国際化戦略の一環としての「東アジアWeek2006」の開催

- 当該地域から多数の研究者を招き、国際シンポジウム、講演会、学長や留学生による討論会等を実施した。1,170名

◆ 履修登録のWeb化による学生サービスの向上

- 履修登録・確認、成績登録・確認をWeb化し、学生・教員の利便性を向上させた。

◆ 国際的な連携の展開

- バローゾ欧州委員長による講演会をEUIJ関西主催の下実施した。
- インドネシア震災復興支援のために複数回にわたって救援・調査団を派遣した。
- 国際協力銀行による中国内陸部人材養成事業を受託し、大学運営を含むMBA関連講義を実施した。
- オックスフォード大学との共催で「オックスフォード神戸国際海事セミナー」を開催した。

